



会期

2020年 3月3日(火)
~ 4月5日(日)

※休館日：3月12日(木)

会場：上山城特別展示室

▶ 展示解説

3月8日(日)、29日(日)

10:30より

・入館時間：9:00~16:45

みにきてね!



春の企画展
上山城の雛まつり

入館料

大人420円

高校・大学生370円

小・中学生50円

※毎週土曜日は小・中学生無料

お問い合わせ

〒999-3154

山形県上市元城内3番7号

公益財団法人上山城郷土資料館

TEL023 (673) 3660

FAX023 (687) 0163

<http://kaminoyama-castle.info>



上山には江戸時代中期以降に流行した享保雛や古今雛などが残されています。

その多くは、最上川の舟運を利用して京や大坂から、または陸路でもたらされました。



【享保雛】

江戸時代中期、享保（1716～36）頃に流行した町雛。当時は平飾りのため比較的大型で豪華な人形が作られました。頭は面長で、目は切れ長、男雛は袖を左右に張り、女雛は紅染めの袴に綿を入れて丸く膨らませているのが特徴的です。

（写真：享保雛／小住家）

【次郎左衛門雛】

京都の人形師菱屋岡田次郎左衛門が創始した雛人形で、古今雛と並び江戸時代の代表的な雛人形の一つ。はじめは公家や将軍家などの上流階級を相手にした雛人形でしたが、作者が江戸・日本橋に出てからは、一般にも普及して享保雛にかわり江戸の人気を独占しました。面長な享保雛と比べて、顔は丸く、引目・鍵鼻の愛らしい顔立ちに特徴があります。

（写真：次郎左衛門雛／中村家）



【古今雛】

上野の人形問屋大槌屋半兵衛が、十軒店の人形師原舟月に作らせた人形がはじまりで、京の有職雛を原型としています。衣裳に金糸・色糸で鳳凰や薬玉などの縫紋を施し、袖に紅染めを用いた華やかさが印象的です。（写真：古今雛／吉川家）



【御殿飾り】

江戸時代末期、江戸を中心に段飾りが主流になる一方で、上方では「御殿飾り」が主流でした。御所の紫宸殿に見立てた御殿の中に内裏雛を置き、官女、隨身、仕丁などの人形を添え飾ります。御殿の屋根を取り払って人形たちの顔を見やすくしたものは「源氏枿飾り」と呼ばれています。昭和初期には折り畳み式で飾りやすい御殿が作られるようになりました。京都、大阪など西日本を中心に人気がありました。（写真：御殿飾り／長沼家）

